

令和3年度 第1回 JCHO 東京蒲田医療センター地域協議会議事録

日時：令和3年7月26日（月）13：45～14：30

場所：東京蒲田医療センター 健康管理棟2階大会議室

出席者：外部委員7名

JCHO 東京蒲田医療センター委員

病院長、副院長3名、看護部長、事務部長、地域連携室長

司会：JCHO 東京蒲田医療センター病院長 石井耕司

【議事内容】

1. 令和3年度 前期報告

『当院における新型コロナウイルス感染患者の対応状況』をテーマとし、下記事項について感染管理認定看護師長より報告を行った。

1) COVID-19 受け入れ状況

・入院患者数

2020年2月～2021年7月23日時点で累計435人

・入院依頼割合

ダイヤモンドプリンセス号7%

保健所64%、東京都14%、成田検疫所5%、羽田検疫所4%

・入院患者平均年齢と男女比

平均年齢は月別で提示（48.6歳）、40～50代が多い

男女比は男性64%、女性36%

・国籍別割合

入院患者の6%が外国人（19カ国）

ネパール19%、オーストラリア16%、アメリカ8%、インド8%、

フィリピン8%、インドネシア5%

2) 高次機能病院転送率

・当院に入院後、ほとんどの患者が自宅等へ退院したが、17名はICU対応が必要となり高次機能病院へ転送した。（全体の5%）

・高次機能病院へ転送した患者（17人）の内訳は、保健所依頼47%（8人）、ダイヤモンドプリンセス号乗員・乗客24%（4人）、当院の外来受診後に入院し転送29%（5人）であった。

3) PCR 検査状況

・帰国者・接触者外来開設前 2020年3月22日～4月24日

独自外来における陽性率：29名中、陰性79%、陽性21%

・帰国者・接触者外来開設後 2020年4月～2021年6月

第3派～第4派の陽性率は18～20%と高値、7月の陽性率は4%以下

・現在外来でのPCR検査施行件数は1日10件以下と減少傾向にある。理由とし

ては、近隣開業医等や PCR センターで検査を行っているためと考えられる。

〈病院長〉

帰国者接触者外来では、保健所が濃厚接触者と認定した対象者に保健所からの指示で PCR 検査を行い、費用は公費になる。以前は濃厚接触者と認定された場合、自宅で 14 日間の経過観察が必要であったため、学校や仕事に行けないという弊害が生じていた。現在は、近医で PCR 検査で陰性を確認できた場合は、通勤や通学が可能になった。そのため当院での保健所経由の PCR 検査は激減している。

〈外部委員〉

施設等で集団生活をされている方の中から陽性者が出た場合、濃厚接触者に関しては保健所より施設等に伺い PCR 検査を行っている。しかし、マンパワー不足の現状があり、保健所の指示で地域の医療機関にて PCR 検査を行っている。

学校等で陽性者が多数出るような状況では、休みをとって頂くなどその都度対応している。

2. 意見交換

事前に『質問票』に記載された内容を中心に意見交換する。

〈外部委員〉

質問：コロナ患者の受け入れ、PCR 検査、ワクチンの接種状況と、今後の課題について。

〈病院長〉

回答：入院の対象者は濃厚接触者で陽性の方、発熱等の症状がある方、高齢の方、重症化しやすい方である。PCR 検査対象者は多くの人と接する機会のある職業歴の方、クラスターを形成するリスクのある職業の方、早期診断が必要な方である。

ワクチン接種状況については、大田区では集団接種が 3 割、個別接種が 7 割である。個別接種については開業医（かかりつけ）で受けたいという 65 歳以上の方がとても多いようだ。当院では医療従事者の接種を先行し、週 120～150 回施行した。現在は 65 歳以上の方を対象に接種を行っている。

〈副院長〉

回答：7 月ではほぼ高齢者のワクチン接種が終わり、8 月から 65 歳以下の方を対象とした接種が始まる。毎週 120～150 人を予定しており供給は安定している。

〈外部委員〉

質問：一定程度のワクチン接種が進んだ際の入院基準・退院基準について、以前とは違ったイメージがあるかお聞きしたい。

〈病院長〉

回答：国の感染症法で決められており、大田区保健所の入院基準、退院基準に従っているため当院で決めることができない。2020 年 2 月～6 月 15 日までダイヤモンドプリンセス号、空港検疫の PCR 検査では 2 回陰性を確認しなければ退院させては行けないとされていた。年齢の若い方や症状がない方も最大 40 日間隔離をしていたが、

6月15日に国の感染症法が改訂され現在の退院基準になった。

退院基準は次の通り。

- ・発症日から10日間以上、症状軽快後72時間以降経過
- ・症状軽快後24時間経過したあと24時間間隔をあけPCR陰性を2回確認
- ・無症状で検体採取日から10日間経過
- ・検体採取日から6日間経過したのち24時間間隔をあけPCR陰性を2回確認

〈外部委員〉

質問：変異株の拡大に伴い、これまでと違った、あるいはこれまでに加えて注意が必要な事項があるか知りたい。

〈感染管理認定看護師長〉

回答：変異株については原則手指衛生、アルコール（78%以上）での消毒、環境整備が大切である。アルコール度数が少ない消毒液を使用する場合は重ねて手洗いが必要だ。家庭で掃除をする際にはペットボトルの水にハイターやブリーチなどキャップ半分以下で薄めたものを使い長いエプロンをつけて換気しながら行うことが大切である。変異株は感染力が強く、マスク同士の会話でも感染すると言われているため一層の注意が必要だ。

〈病院長〉

当院は、2020年2月18日ダイヤモンドプリンセス号の患者様を受け入れてから440人以上の患者様を診てきた。陽性の患者様、疑いのある患者様、感染していない患者様のエリアを分けて診察する『ゾーニング』で、院内感染をおこさないように注意を払っている。幸いなことに、現時点では院内感染を一例も出していない。コロナ以外の患者様も安全に注意しコロナウイルスに接する事なく、曝露されることないよう今後も努力していきたい。

東邦大学医療センター大森病院より医療安全の教授を退任し4月より副院長として赴任した渡邊正志医師からの挨拶。

〈渡邊正志副院長〉

東邦大学医療センター大森病院では、医療安全について長く関わってきた。現在は、石井病院長と感染管理認定看護師長と一緒に新型コロナウイルス感染症対応をしている。コロナの患者の皆様が、長期的にみても後遺症を残すことなく退院できる治療の確立が今後の課題である。

これからも、患者様やご家族には真実をしっかりと伝え、寄り添った対応ができるようにしていく。こちらの地区の皆様と共に良い医療が提供できる病院を作りたい。

以上